



地震が発生したら

正確な情報を収集する

- 息でまず身の安全を確保する
- 倒れやすいものから離れ、落下物に注意
- むやみに動かす安全を確認
- 非常にやドア等を開けて避難口を確保
- 避難は徒歩で、荷物は最小限に
(火を扱っている場合は、身の安全を確保後、火の始末)
- エレベーターを使用せず階段で避難
(エレベーターの中にいて揺れを感じたら、すぐに行き先ボタンを全部押し、止まった階で降りる)
- 正確な情報収集に努め、なるべく集団で行動
- 負傷者の救護や初期消火に協力
- 施設に不慣れな来客者や障がいの方などの避難を積極的に支援
- 家族との安否確認及び大学へ安否連絡

地震発生直後は裏面へ



学校への連絡方法

安否確認

落ち着いたら大学へ安否をしらせる。

担当部署:学生支援センター

- (1) Eメール
大学 gakusei@fuksi-kagk-u.ac.jp
短大 gakusei@kwc.ac.jp
- (2) 電話
大学 072-977-9574
短大 072-977-9577
- (3) FAX
大学・短大 072-977-4653
- (4) ハガキ
〒582-0026 大阪府柏原市旭ヶ丘3-11-1
関西福祉科学大学・関西女子短期大学
学生支援センター 宛

※ 電話がつながりにくくなる可能性が高いのでなるべく
Eメール・FAX・ハガキなどの方法で連絡してください。

報告事項

- ① 氏名 ② 学科・学年 ③ 学生番号
- ④ 本人・家族の状況 ⑤ 現在の連絡先
- ⑥ 困っていること ⑦ 自宅や付近の状況



大地震に対する日頃の準備

- 大地震の発生を防ぐことはできなくとも、適切な準備を行うことで被害を軽減することができます。どんな備えが必要か考えておきましょう。
- 避難場所の確認(大学付近および自宅周辺等)
- 家族との連絡方法および待ち合わせ場所の確認
- 災害伝言サービスの確認と登録(メール宛先等の事前登録が必要)
- 帰宅ルートおよび所要時間の確認(災害時徒歩約2.5 km/h)
- 緊急時メモの作成・記入
- 具体的な情報収集手段および緊急避難場所等の確認(大学および通学途中)
- 転倒防止対策や緊急時アイテムの確認
- 大学および友人等への連絡方法の確認およびリスト整備

本マニュアルは本学ホームページよりプリントアウトできますので、ご家族にも是非お伝えください。

大学 <http://www.fuksi-kagk-u.ac.jp/visit/students/>
短大 <http://www.kwc.ac.jp/campuslife/>

本学ホームページはスマートフォンにも対応しています。ただし、電池が切れることもあるので、このマニュアルも合わせて携帯してください。

※インターネット接続時にパケット通信料がかかります。



緊急避難アイテム

日頃から準備・携帯しておくと便利な物

- | | |
|--|---------------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 現金(小銭も) | <input type="checkbox"/> アドレス帳 |
| <input type="checkbox"/> 健康保険証 | (家族、友人の連絡先を記入) |
| <input type="checkbox"/> タオル・ばんそうこう・包帯 | <input type="checkbox"/> 雨具(カッパなど) |
| <input type="checkbox"/> 手回し充電ラジオ・ライト | <input type="checkbox"/> 携帯充電用USBケーブル |
| <input type="checkbox"/> ティッシュ・ウエットティッシュ | <input type="checkbox"/> ポリエチレン製ごみ袋 |
| <input type="checkbox"/> 非常用保温アルミシート | <input type="checkbox"/> 油性マジックペン |
| <input type="checkbox"/> チョコレート・あめなど | <input type="checkbox"/> コンタクト用品 |
| <input type="checkbox"/> 学生証(免許なども) | <input type="checkbox"/> 生理用品 |

その他非常に必要なアイテム

- | | |
|------------------------------------|-----------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 貯金通帳 | <input type="checkbox"/> 印鑑 |
| <input type="checkbox"/> 常用薬とその処方箋 | <input type="checkbox"/> 上着・下着・靴下 |
| <input type="checkbox"/> 運動靴 | <input type="checkbox"/> リュック |
| <input type="checkbox"/> 卓上コンロ | <input type="checkbox"/> 懐中電灯 |
| <input type="checkbox"/> ひも・ロープ | <input type="checkbox"/> ろうそく |
| <input type="checkbox"/> 予備電池 | <input type="checkbox"/> 匂切り・栓抜き |
| <input type="checkbox"/> スリッパ | <input type="checkbox"/> 洗面用具 |
| <input type="checkbox"/> 使い捨てカイロ | <input type="checkbox"/> 非常用食料・水 |

memo

※ 記入は油性のペンを使用してください。

地震 対応マニュアル

身の危険を感じたり、交通機関に大きな被害が
出る等日常生活に支障を及ぼすレベルの地震
が発生した場合は、本マニュアルを参考にして、
身の安全を守り立ち直り行動してください。

緊急時パーソナルメモ

※記入は油性のペンを使用してください。

フリガナ
氏名

学部・学科・専攻

学生番号

住 所

電話番号 ()

生年月日 血液型 Rh ()

持 病 あり() 常用薬 あり()

アレルギー あり() なし()

家族との待ち合わせ場所
家族と共有しておきましょう
(自宅近くの避難場所)

緊急時連絡先

氏名 (間柄)

電話番号 ()

各社のQRコードはこれら



NTTドコモ	http://dengon docomo ne jp/top.cgi
au	http://dengon ezweb ne jp/
ソフトバンク	http://dengon softbank ne jp/
ワイモバイル	http://dengon willcom inc com/

地震発生直後 → 揺れがおさまったら → 落ち着いたら① → 落ち着いたら②



今いる場所は
本当に安全?

YES その場所を
動かない

NO 避難場所へ
避難



家族との
安否確認

※裏面参照

自宅が大学に
歩いて帰れる?

YES 自宅or大学へ

NO 避難場所へ



大学へ
安否連絡

※裏面参照

POINT ▼

POINT ▼

POINT ▼

緊急地震速報が聞こえたら

- 火の元を切る。(ガスの元栓を閉める)
- 緊急避難に備えて近くの出入口を開放する。

大きな揺れを感じたら

緊急地震速報が聞こえず地震が発生した場合は、まず各自の安全を確保し、大きな揺れがおさまった後に近くの出入口を開放する。

危険物から離れる

窓や棚、ガラスなど割れたり中のものが飛び出しそうなものから離れる。

落し物から頭と手足を守る

机の下にもぐる、バッグなどで頭を覆うなどして、頭と手足を守る。広場やグラウンドなど、落し物がない場所にいる場合は、その場で座り込む。

揺れがおさまるのを待つ

安全を確保して、揺れがおさまるのを待つ。

揺れがおさまったら

冷静に、落ち着く

余震の可能性もあるので、あわてずにしばらく様子を見る。

周囲の状況を確認

ガラス、黒板、テレビなどが倒れるおそれがないか、天井からの落下物や薬品の流出が無いと確認できた場合は、むやみに動かないほうが安全である。危険と判断した場合は、安全などころへ移動する。

初期消火

火災が発生している場合は自分の身が安全な範囲で周囲の協力を得ながら初期消火。消火が困難と判断した場合は、すみやかに火から離れる。

負傷者の救護

負傷者がいる場合は自分の身が安全な範囲で周囲の協力を得ながら応急救手をし、教職員に連絡する。

避難する時の注意点

- 避難に支障の出る大きな荷物は置いていく。
- 火災の場合は煙を吸わないよう、タオルなどで口を覆う。
- エレベーターは使用せず、階段で移動する。

周囲の状況に注意し、身の安全の確保を最優先とする。

壇、電柱、自動販売機などから離れ、落下物にも注意する。

むやみに動かず安全を確保する。

被害状況を正しく把握する。

自宅からの通学者は事前に家族と相談して決めた避難場所に移動する。ただし、被災場所やその場の状況によっては安全を最優先し、別の避難場所や大学に移動する。

避難中は警察や消防の指示に従う。

●避難は徒歩で、荷物は最小限に。
(火を扱っている場合は、身の安全を確認後、火の始末)

●正確な情報収集に努め、なるべく集団で行動する。

●エレベーターを使用せず階段で移動する。

●自分の身が安全な範囲で負傷者の救護や初期消火活動に協力する。

●海岸付近にいる場合は直ちに高い所へ避難する。

大学を基点とした避難場所

避難場所は、広く、火災による延焼のおそれがないところが適しています。大学ではあらかじめ下記の場所を避難場所として想定していますが、地震時の状況により安全な場所へ避難してください。



「地図データ」(国土地理院)(http://maps.gsi.go.jp)をもとに有限会社プリントイングサービス作成

安全が確認されるまで 大学にとどまる

余震がおさまり、帰宅手段等の安全が確保されるまで無理に帰宅せず、原則として大学にとどまりましょう。なお、徒歩で帰宅する目的の距離は最大でも20km以内です。あらかじめ、自宅と大学間の距離や帰宅経路を確認しておきましょう。また、情報収集の際に、チーンメールやうわさなどにまどわされず、大学や公共機関、テレビ・ラジオなどからの正確な情報を入手して行動しましょう。



大学にいるとき

通学中・外出時

地震発生後の移動について

●多くの人が一斉に帰宅すると各所で混雑が発生するため、余裕を持つことも大切。周りの状況を確認してから帰宅しましょう。

●災害時の歩行速度は約2.5km/時程度、10kmは4時間要することになります。

●日没後の行動は危険です。夜間は犯罪に巻き込まれる可能性もあるため、1人での行動は避けましょう。

月 日	日の出	日没
3月20日	05:45	17:53
6月20日	04:25	19:00
9月20日	05:27	17:41
12月20日	06:46	16:31
※悪天候は1時間早く暗くなります。		